

2021年 8月 20日

豊橋技術科学大学長 殿

建築・都市システム学専攻
学位審査委員会
委員長 中澤祥二



論文審査及び最終試験の結果報告

このことについて、学位審査会を実施し、下記の結果を得ましたので報告いたします。

学位申請者	Andi Lolo Sinrang Arisaputra		学籍番号	第175503号
申請学位	博士（工学）	専攻名	大学院工学研究科博士後期課程 建築・都市システム学専攻	
博士学位論文名	A Study on Characteristics and Planning Issues of Street Vending Function in Developing Country (発展途上国における露天商機能の特色と計画課題に関する研究)			
論文審査の期間	2021年 7月 15日 ~ 2021年 8月 20日			
公開審査会の日	2021年 8月19日	最終試験の実施日	2021年 8月19日	
論文審査の結果※	合格		最終試験の結果※	合格
審査委員会(学位規程第6条)				
学位申請者にかかる博士学位論文について、論文審査、公開審査会及び最終試験を行い、別紙論文内容の要旨及び審査結果の要旨のとおり確認したので、学位審査委員会に報告します。				
委員長	渋澤博幸			
委員	松島史朗		浅野純一郎	
	戸田敏行			

※論文審査の結果及び最終試験の結果は「合格」又は「不合格」の評語で記入すること。

論文内容の要旨

東南アジア諸国の都市において、商業機能の一端を担う重要な施設として、露天商の存在がある。国によって扱いに違いがあるものの、場所の使用や営業そのものに対し行政から許可を得ているものもある反面、大半は非正規のものである。しかし、非正規でありながら、都市における商業機能としての役割は見逃せないものがあり、小売商業や飲食等、文字通り、商業機能としての役割に加え、露天商経営者に即せばその雇用や職業供給機能、さらには都市そのもののアイデンティティや観光機能まで様々な効用が指摘されてきた。本研究は、インドネシアのマカッサル市を対象として、異なるタイプの露天商集積地を比較しながら、露天商集積がもたらす都市計画的課題や、社会経済的な側面からの効用や可能性を明らかにし、今後のあり方を論じるものである。

第1章では、本研究の背景及び目的、研究の構成が述べられている。露天商機能はその設置に非正規性が認められるものの、あえてこの多様性を評価し、非正規的経済活動との関係性を強化するべく露天商保護や計画的誘致にむけた計画的整備のあり方を追求することが重要であるとの仮説に立つものとしている。

第2章では、既往文献調査等を踏まえ、露天商における非正規性の定義、東南アジア諸国の各都市における露天商の展開状況、対象都市とするマカッサル市の状況、調査方法等がまとめられている。東南アジア各国においては、インドネシアと共通する露天商機能が見られること、マカッサル市においては、移動可能な一時的露天商と同じ場所で永続的に商いをする常設型露天商、及びその中間型の三種類に区分できることが示されている。調査方法としては、大通りの沿道に展開するペトラニ通り、同市随一の観光地であるロサリビーチ、唯一の行政介入方式で整備したカレボシ地区の3箇所を対象とし、露天商や利用客への悉皆的なアンケート調査やヒアリング調査を行った。

第3章では、大通りの沿道に露天商が集積するペトラニ通りを対象とし、一時的露天商と常設型露天商の二つにわけながら、提供する商品やサービス内容、経営者の属性（経営経過や年収等）、露天商施設のディテールと間取り、利用者の評価等を明らかにしている。その上で、この場所に露天商が集積する理由や需要を考察し、社会的な必要性を肯定的に論じている。また、露天商が営業することによる歩道等、公共空間の喪失については、公共空間の利用を再考することで摩擦回避に繋がることを示唆している。

第4章では、マカッサル市の代表的観光地であるロサリビーチを対象とし、露天商経営者や利用客への悉皆的調査から、朝、昼、夜の時間毎の需要と供給の変化、他都市圏にまで及ぶ利用客の誘因距離の広さ、経営者の経営履歴の多様性等を明らかにしている。その上で、露天商保護や整備施策は、単なる商業提供機能の維持ではなく、観光施策にも有効で、都市のポピュラリティそのものの向上に有効であることを示している。加えて、貧弱な外観や設備、景観向上が課題だと指摘している。

第5章では、マカッサル市による施策として露天商集積を進めたカレボシ地区を対象に、その効果と課題を提供している。歴史地区や業務地区に近いカレボシ地区を選定したことによる周辺地区の活性化、露天商設置に必要なインフラ（水・電気）等を無料で提供したことによる露天商の集積性、施設デザインを共通化したことによる露天商集積地景観の向上について分析し、その効果を評価した。他方で、露天商募集に対する対象地域選定には課題があることを明らかにしている。

結論である第6章では、異なる3つの露天商集積地の調査を基に、露天商機能の利点・欠点を、露天商機能の存在、都市デザイン及び都市計画課題（ストリート・スケールと都市スケール）、社会面、市場性の各々観点から客観的に評価し、今後のあり方を論じている。

審査結果の要旨

本研究はインドネシアのマカッサル市を対象として、都市における露天商機能の社会経済的な役割や都市計画的な整備課題を明らかにするものである。発展途上国における露天商の特徴は設置場所が通りの歩道空間や車道脇、公園や緑地といった公共空間に形成されることがあり、これが行政から未許可でなされる点にある。このように非正規露天商が大半でありながら、周辺地区への日用品供給機能としての役割、比較的所得低者への職業提供機能としての役割等をもつことで、都市に不可欠な社会的インフラとして各都市で定着している。既往研究においても露天商の特性や実態は、東南アジア諸国の事例に即する形で、社会学的側面から主になされてきており、非正規経済としての露天商機能の重要性が評価されてきた。本研究は、こうした既往研究の蓄積の上に、物的な露天商の集積形態として、大通りへの集積、公園や観光拠点地への集積、行政による計画的集積地といった異なる集積パターンがあることを示し、各々のケーススタディを通し都市計画的なアプローチで露天商問題に迫っている点に新規性が認められる。

露天商の個店レベルでみた場合では、建築的観点からの施設や設備の特性、これが移動可能な一時的露天商と常設型露天商で異なることを、露天商を各々の集積地レベルのスケールでみた場合には、それぞれの集積地の立地環境と露天商の提供商品による集積内分布特性との関係、露天商経営者の教育レベルや職業経過と露天商経営による実収入との関係、露天商を商うに至った理由等、多方面に関わる詳細調査によって、独自で初発の新事実を数多く明らかにしている。こうした事実解明によって、社会的セーフティネットとしての非正規露天商の存在の重要性を明快に示している。

露天商を都市スケールでみた場合、とりわけ観光地である公園集積型の露天商では広域商圏を持っていることを実証しており、人口200万人を超えるマカッサル都市圏の全域に及んでいる。このように、場所によっては露天商の整備は、都市レベルのマーケティングやアイデンティティの確立、観光施策に密接であることを示し、新たな都市整備の方向性を示している。加えて、マカッサル市が露天商を計画的に誘致したカレボシ地区の現状を詳細調査しており、周辺地区への経済効果、賑わいの創出、露天商経営者への環境改善、露天商施設デザインによる景観創出に一定の効果を上げたことを具体的に示すと同時に、露天商の他所からの移動施策を兼ねた露天商選定方法については、実勢に即していないことを指摘している。露天商機能に対する公的都市計画的施策についての報告はまだなく、初出のものとして高く評価される。

このように、本研究はマカッサル市を対象とした露天商機能研究ではあるが、物的計画、社会性、経済性の3つの側面から包括的な計画論をバランスよく展開した、本格的な露天商研究として高く評価される。特に、都市計画的なアプローチによって、具体的な露天商の整備課題を特定している点も貴重である。3箇所を対象地区でなされた、露天商及び利用者に対するアンケート調査やヒアリング調査は膨大な規模であり、大変な労作でもある。この調査は申請者自身によって行われただけでなく、申請者の協力者からも多分の支援があったが、そうしたことを含めて大規模な調査をマネジメントした手腕も評価される。

以上により、本論文は博士（工学）の学位論文に相当するものと判定した。

(各要旨は1ページ以上可)